

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-110425
 (43)Date of publication of application : 14.05.1988

(51)Int. Cl.

G02F 1/133

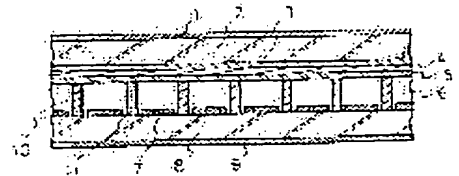
(21)Application number : 61-257934 (71)Applicant : TOPPAN PRINTING CO LTD
 (22)Date of filing : 29.10.1986 (72)Inventor : ONISHI MOTOI
 SASAKI ATSUSHI
 HOSHI HISAO

(54) CELL FOR SEALING LIQUID CRYSTAL

(57)Abstract:

PURPOSE: To permit uniform and stable maintenance of about $\leq 2\mu\text{m}$ cell gap by using a material having adhesiveness to a transparent panel and material having rigidity to form spacers and forming the spacers respectively independently.

CONSTITUTION: Transparent electrodes 3, 7 are formed to a matrix shape on glass substrates 2, 8 and an insulating film 4 is provided on one transparent electrode substrate. An oriented film 5 is further coated thereon. One kind of the resin selected from casein, glue, gelatin, polyurethane and polyamide resins, etc., or the material formed by converting said resins to a photosensitive resin is selectable as the material of the adhesive spacers 10. The material for the rigid spacers 11 is exemplified by resins which are increased in rigidity, stable inorg. materials such as silicon dioxide and alumina or metals, etc. For example, the adhesive spacers 10 and the rigid spacers 11 are formed alternately to stripe shapes and are disposed. The very small cell spacing of about $2\mu\text{m}$ or below is thereby exactly maintained.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's
decision of rejection][Kind of final disposal of application
other than the examiner's decision of
rejection or application converted
registration][Date of final disposal for
application]

⑫ Int. Cl.

G 02 F 1/133

識別記号

3 2 0

庁内整理番号

8205-2H

⑬ 公開

昭和63年(1988)5月14日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 液晶封入用セル

⑮ 特 願 昭61-257934

⑯ 出 願 昭61(1986)10月29日

⑰ 発 明 者 大 西 基 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内
 ⑱ 発 明 者 佐 々 木 淳 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内
 ⑲ 発 明 者 星 久 夫 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内
 ⑳ 出 願 人 凸 版 印 刷 株 式 会 社 東京都台東区台東1丁目5番1号

明 細 書

1 発明の名称

液晶封入用セル

2 特許請求の範囲

(1) 少なくとも透明電極パターンを有する透明基板を対向させた1組の透明パネル間に、該透明パネル間の間隙を維持する目的でスペーサーを介在させている液晶封入用セルにおいて、前記スペーサーが、該透明パネルに対して接着力を有する材料と弾性を有する材料により、それぞれ独立して形成配置することにより、該基板間の間隙を均一かつ安定に保持することを特徴とする液晶封入用セル。

(2) 特許請求の範囲(1)項において、接着力を有するスペーサーが、カゼイン、グリュー、セラチン、低分子量セラチン、ノボラック、ゴム、ポリビニルアルコール、ビニルポリマー、アクリレート樹脂、アクリルアミド樹脂、ビスフェノール樹脂、ポリイミド、ポリエステル、ポリウレタン、

ポリアミド系の樹脂または上記樹脂を感光性樹脂化したものからなり、弾性を有するスペーサーが上記有機材料の弾性を高めたるもの、あるいは無機材料、金属よりなる液晶封入用セル。

(3) 特許請求の範囲(1)項において、セル間隙が2mm前後あるいは、それ以下であることを特徴とする液晶封入用セル。

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は液晶表示パネルを用いた装置にかかわり、特に大型パネル、液刷電圧液晶を用いた液晶表示パネルに連する構造に関するものである。

(従来技術)

従来、液晶封入用セルにおいてスペーサー材としてはグラスファイバーあるいはグラスビーズ、樹脂ビーズ等が用いられ、パネルの接合は、主にスクリーン印刷によりパネルの周辺部に塗布されたシール材で行っていた。それ故、マトリクス型の液晶表示パネルでのシール部は実効表示画面の周辺部に限られており、各画素間の接合が不充分で

あった。

また誘導電圧液晶パネルの作成に伴い、セルギャップを薄く保つ必要があるが現状ではビーズ厚での $2\mu\text{m}$ 程度あるいはそれ以下のセルギャップの制御は困難である。

(発明の目的)

従来のTN型液晶表示パネルにかわり、誘導電圧液晶を用いた液晶表示パネルが注目されているが、実用化の一つの問題としてセルギャップの微小化に伴うギャップの制御、保持をすることが出来る。さらにパネルの大型化が図られ、重要な課題となつてきている。

本発明の目的は、 $2\mu\text{m}$ 程度、あるいはそれ以下のセルギャップを均一かつ安定に保持し、またパネルの大型化にも耐える液晶セルを作成することである。

(発明の構成)

第1図、第2図に本発明の液晶内入用セル一実施例の透視図を示す。

ガラス基板(1)(8)上に透明電極(3)(7)をマトリクス

- 3 -

限られることなく、任意の割合で設けることができる。例えば、順性スベークセルを半分省略して、誘導性スベークセルと順性スベークセルの割合を2:1にするなどである。

誘導性スベークセルは公知のフォトリソグラフィ工程により形成し、順性スベークセルは感光性のポリイミド等であればフォトリソグラフィ工程で形成でき、無機材料、金属であれば公知のリフトオフ工程により形成する。ただし金属の場合は導電性があり、電気的短絡を防ぐ意味からスベーク形状をストライプ状とすることは出来ない。上下両電極の両方に接することのない位置にドット形状で配設することとなる。勿論、金属以外のスベークにおいても形状はストライプに限定されるものではない。偏光子(11)(9)はクロスニコルの状態として貼り合わせる。

以上述べた構造を有する液晶内入用セルに、誘導電圧液晶を注入し、封止する。誘導電圧液晶はラビングの影響を受けホモジニアス配向する。そこに適切な駆動信号を印加し、バックライトの存

在に形成し、一方の透明電極基板上面に遮光膜(4)を設け、さらにその上に配向膜(5)を塗布する。配向膜(5)はラビングにより一方向配向膜が形成されている。

誘導性スベークセルの材料としては、カゼイン、アクリル、ゼラチン、低分子重ゼラチン、ノボラック樹脂、ゴム、ポリビニルアルコール、ビニルポリマー、アクリレート樹脂、アクリルアミド樹脂、ビスフェノール樹脂、ポリイミド、ポリエステル、ポリウレタン、ポリアミド系の樹脂から選択された一種の樹脂、または上記樹脂を感光性樹脂化したものが選択できる。

さらに、順性スベークセルの材料としては、上記樹脂の順性を高めたもの、二酸化ケイ素やアルミナ等の安定な無機材料あるいは金属などが挙げられる。

図の実施例では、誘導性スベークセルと順性スベークセルは互いにストライプ状に形成して配向されていて、誘導性スベークセルと順性スベークセルの割合は1:1であるが、もちろんこれ

- 4 -

在下で白黒表示を行う。カラーフィルターを付設すればカラー表示も可能である。

(作用)

本発明は、それ自体がパネルに対して誘導性のあるスベークを用い、かつ同時に順性スベークも併用した液晶内入用セルであるから、 $2\mu\text{m}$ 程度またはそれ以下の極小のセル間隔が正確に維持できる。

(発明の効果)

第一の利点として、フォトリソグラフィ、リフトオフ等の微細加工技術を用いてスベーク形成を行っていることにより、 $2\mu\text{m}$ 程度あるいはそれ以下のセル間隔制御が高精度($\pm 0.1\mu\text{m}$ 以下)で可能であり、特に誘導電圧液晶内入用セルとして適している。

第二に、スベーク自体に誘導性があるので、周辺部のみのシールドに比較し誘導強度が増大する。

第三に順性スベークを設けたことにより、パネル形成の正置時における誘導性スベークの歪曲を防ぎ、均一なセル間隔を維持することができ

- 5 -

- 140 -

- 6 -

る。パネルの大型化、面裏の装飾化が望まれる液晶表示装置において、またセル間隔の微小化に際し有効な手段である。

(実施例)

第1図に、セル作成過程及びその手段を示す。ガラス基板上に透明電極としてITOをスパッタリングし、通常のフォトリソグラフィ法によりマトリクス状の電極パターンを形成する。

電極基板Aにおいては、まず SiO_2 層をスパッタリングにより形成し、これを絶縁膜とする。次に配向膜としてポリイミドをスピンコートし、ラビングにより一軸配列処理を施した。

電極基板Bは、接着性スペーサーと剛性スペーサーを交互に配するため、まず、ストライプ状の SiO_2 スペーサーをリフトオフ法を用いて電極間の所定の位置に形成した。これを剛性スペーサーとする。次に接着性スペーサーとしてゴム系レジストを覆うの電極間をフォトリソグラフィ法により形成した。

上記工程により作成した基板A、Bをアライ

メントの圧加熱により良好な液晶封入用セルを得た。

4.図面の簡単な説明

第1図は、本発明の液晶封入用セルの一実施例を示す断面図であり、第2図は本発明の液晶封入用セルの一実施例を示す平面図であり、第3図は、液晶封入用セル作成の工程手段を示すフロー図である。

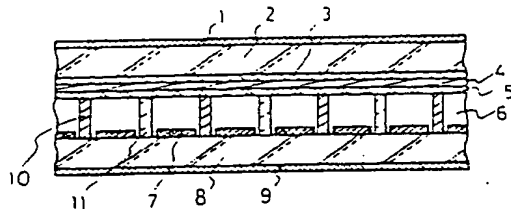
- (1)(3)…基板
(2)(7)…透明電極
(5)…配向膜
(10)…接着性スペーサー
(11)…剛性スペーサー
(12)(8)…ガラス基板
(4)…絶縁膜
(6)…液晶層

特許出願人

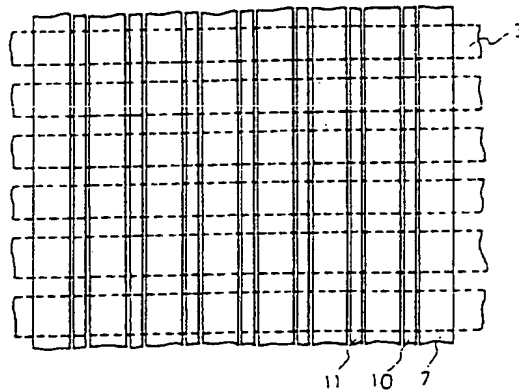
凸版印刷株式会社

代表者 鈴木 邦夫

- 7 -

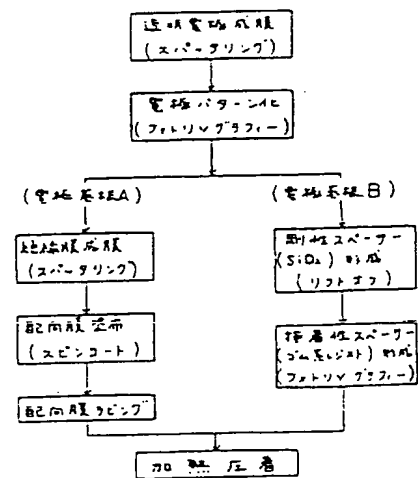


第1図



第2図

- 8 -



第3図